

質疑への回答

ナガサキ・ユース代表団第9期生

● 日本の安全を守るという報告で日本とはどのように考えていますか。

ご質問ありがとうございます。報告会内で言った日本の安全というのは、国際社会において日本の主権をどのように守るのかという意味で日本という言葉を使いましたが、私個人の意見としては、日本と言ったときには、日本人という人に焦点があてられるべきだと考えています。

● 「長崎」にどのような意味を持つと考えていらっしゃいますか。

長崎は浦上天主堂が再建されて、広島原爆ドームのような象徴的ではないことが、きっと違う形での精神的なシンボルが必要ではないでしょうか。

ご質問ありがとうございます。報告会の中では、「長崎」の持つ意味について「最後の戦争被爆地」であるからだとお答えいたしました。しかし、もちろん長崎の意味はそれだけではありません。これは私達の短い任期の間に、広島と長崎の被爆者の一部の方々のお話を聞いて比較して考えた一意見としてお聞きください。

長崎は、当時の被害だけでなく戦争の大枠として日本の加害にも焦点を当てられる点に意味があると考えます。なぜなら、長崎の被爆者の語り部の方々の多くが、戦争を語る際の背景として日本の加害からお話されているからです。また、長崎の特色である宗教とユーラシア大陸との地理的位置が関係しており、日本のみでは無い視点から「こちらにも落ち度があった」という考えを教育していらっしゃる方が多いように感じます。この様に、日本が被害に遭ったという視点のみで「怒る」だけではなく、経験が未来の関係に繋がるよう「祈り」啓発するという点で長崎は広島には無い意味を持っていると考えます。

● 出前講座で核兵器について興味を持った生徒たちに対して、その興味を失わないような働きかけが必要になると思いました。そのような働きかけを誰が担うべきだと思いますか。

ご質問いただきありがとうございます。子どもたちの平和に対する興味を失わないような役割を担っていくのは、親世代の方々なのではないかと思います。子供に最も近い存在で最

も時間を共にしているのは、ご家族の方々です。子どもたちが興味を持ったことに対して、周囲のバックアップやサポートがあれば、彼らの関心は失われないのではないのでしょうか。

● **ホロコースト等もオリンピックの時のこともあり、必要でしょうか。**

ご質問いただきありがとうございます。ホロコーストがどんな理由であれ必要ではないことを前提として、ホロコーストとオリンピックは本質が異なるのではないのでしょうか。

● **オンラインも、長崎を東日本にも広く伝えていくには、コロナ禍後にも使えないでしょうか。**

ご提案ありがとうございます。コロナウイルス感染拡大によって必要に迫られたオンラインですが、海外でのイベントに参加することができるなど、オンラインによって私たちの活動の幅は広がったと思っています。コロナ禍でも、オンラインとオフラインをハイブリッド化して、可能性を広げることができる点で、オンラインは必要だと考えています。

● **今後は非体験者による平和教育になっていくかと思いますが、体験していない人たちが平和教育をする側に立つということではあることは何だと思いませんか？**

ご質問いただきありがとうございます。いつかは全ての人たちが戦争非体験者になる世界で求められる事は「知ること」「知ろうとすること」なのではないのでしょうか。現在、体験者の話を聞きたいか、という質問に対し二人に一人以上の若者が「聞きたくない」「どうでもいい」と回答しています。直接的に話を聞く、または、身近な人に戦争体験者がいることは、戦争の悲惨さや平和の大切さについて自分事と捉えるのに必要不可欠だと思っています。まずは自分から戦争体験者に話を聞く、あるいは家族の戦争体験を聞くことが第一歩、そして、いつか子供ができたときにその経験を語り継ぐことこそ、後に残された者の使命であり、責任であると思っています。

また、私たち非体験者が体験者の経験をただ語り継ぐだけでは現実味がわからないという問題点もあると思います。そこで、その体験者の方々が私たちと同じ日常の中で生きていたことなど、私たちと同じ世代の生活と結びつけていくことが必要だと考えております。戦争中と現在の暮らしはもちろん異なりますが、日常の小さな幸せや人との関わりなど共通する部分もあると思います。このようなものと結びつけながら伝えていくことを意識しながら、私たちは若い世代や次世代に伝えていかなければならないと思っております。

● **日本の加害の歴史について、実際に他国の方とどのような認識の差があったのでしょうか。**

ご質問いただきありがとうございます。任期中、特に P E A C E MOMO という韓国の団体が主催する定期イベントで近隣の北東アジアの国々の若者と交流する機会が多くありま

した。そこでは例えば、韓国の済州島で平和活動されている米国人の方による「日本が戦時に爆撃実験で作った穴が、美しい済州島に直しもせずそのまま残っている」というお話には衝撃を受けました。その日のトピックは「米国の軍事活動について」であったため、日本にフォーカスして攻めるなどという内容ではありませんでした。しかし、その発言を他の国の若者も自然に受け入れていたため「日本人の私達ユースメンバーだけが、日本の加害について知らない」という状態になり差を感じました。他にもアジアの留学生との交流や、軍艦島の研修などでも似たような経験は多くありました。

● 出前講座にて、「核兵器は必要」と答えた学生に対してどのようにフィードバックをしていますか？

ご質問いただきありがとうございます。さまざまなことを考えた上で結論付けた生徒さんの意見は尊重されるべきであると考えています。「核兵器は必要である」という考えが不正解ではないということをお伝えした上で、そもそも核兵器という非人道的な兵器を使って自分の国を守るシステム自体に疑問を投げかけ、協調安全保障という方法も存在することもお伝えしています。

● 全国の大学などの平和活動サークルとの具体的な活動はどのようなものがありますか。

ご質問いただきありがとうございます。SNSのTwitterの活用の中で、全国の平和団体と繋がりを持ったと述べました。これは、北海道から沖縄まで全国の団体を地域ごとに分けてこちらで検索し、一件一件連絡することでコネクションを作りました。具体的には、本報告会にて調査した全国の18-24歳の若者へのアンケート配布協力や、お互いの情報交換などで連携し活動しています。また現在2つの団体と一緒に、平和について考える動画を作成し公開する企画を進行中です。

● 核について興味を持ってもらうにはどのような活動ができると思いますか。

ご質問いただきありがとうございます。核兵器の問題に限らず、知らないことや楽しいと思えないことに対して、興味を持つことは難しいと思っています。

そのため、まずは知ってもらうことが必要で、広く周知活動を行うことが第一歩かな、と思っています。核兵器問題についてもっとより広く知ってもらえれば、自ずと興味を持ってくれる人も増えるかと思っています。

また、別の視点から考えることも、興味をもってもらうことに繋がると 생각합니다。

例えば、私たちは地元のサッカーチームであるV・ファーレン長崎の、9/11(土)の試合前YouTube配信の中で、活動の紹介をさせていただきます。こうした活動も、サッカーに興味はあるけど、核兵器問題については知らなかった、という人たちへ届けるきっかけにもなりますし、興味をもってもらうためにできる活動の1つだと思います。

● 平和に関する私たちの考え方は、学校で行われる平和教育の内容に大きく左右される面

があると思います。現在の平和教育学習で何の題材を取り扱うかは、学校に裁量権がありますが、それによって決められた教育内容が私たちの思想に及ぼす影響というのは非常に強いように思われます。これに対して、皆さんが学校に対して働きかけたいことがあれば知りたいです。

ご質問ありがとうございます。アンケート調査の結果からも分かるように、平和教育というものは全国で平等に行われているものではありません。いつかはどの学校でも平和教育が義務教育化されて欲しいと考えております。アンケート調査を始めたきっかけの一つに、アンケート調査の結果から、平和教育があまりなされていない都道府県に出前講座に行きたい。という思いがありました。今後は調査の結果をもとに全国の学校に対して、出前講座などで平和教育を受ける機会を提供したいと考えております。

● ユース代表団が考える、理想の平和教育について、もっと詳しく伺いたいです。

ご質問いただきありがとうございます。私たちはハワイのパールハーバーで平和事業をされているある方からお話をお聞きする機会を得ました。その方はハワイで未来想像型プロジェクトを行っており、研修や修学旅行などでハワイを訪れた若者たちに自分たちがつくる平和について考えてもらう事業です。パールハーバーの資料館を見学する際に、【自分たちが受け取ったことは何か】【資料館を出ていく時の人に対する印象】【良いとか悪いとかの判断ではなく、どこが足りていてどこが足りないか】の3つの観点について自分自身の考えや感じたことをメモにとっておくことが宿題として出されていました。それらを後に共有し、最後に皆さんが新しい平和に関する資料館をつくるために、こういった内容の資料館にするか考える活動に繋がります。過去のことを学ぶときに、客観的事実と概念的事実として歴史を見るのですが、その内容を受動的に聞くのではなく、学ぶ目的意識をそれぞれが持てるように設定すると自分事として平和や戦争を捉えることができると考えています。

● SDG s の小中高の学校のセミナーなどを活用できないでしょうか。

ご質問いただきありがとうございます。メンバーにも教育学部の者が居りますが、確かに最近義務教育の中の特別講義等でSDG s を題材にしたものが増えているようです。76年前の問題を、「今の問題」と結び付けやすいツールであるため、今後の出前講座等にあたり参考にさせていただきます。貴重なご意見ありがとうございます。

● 出前講座で、多様な意見が出るように、何か工夫されているのでしょうか。

ご質問いただきありがとうございます。私たちが工夫した、気を付けた点は、偏った見解ではなく、様々な視点から核兵器について考える材料を提供できるようにしたこと。私達はもちろん核兵器は必要ない、と思って活動していますが、現に核兵器を保有している国は存在していて、そうした国々がどうして核兵器を持ちたがるのか、核兵器保有派の見解も説

明します。そうすることで、核兵器が必要か、そうではないか、どちらの考えも理解し、考えてもらうことに繋がっています。

また、「これが正解」ということはない、ということを伝えることも工夫しました。核兵器を
いる、いない、と発言するとき、どちらの意見が正しい、どちらが間違っている、というこ
とはなく、考えることが大切だということを伝えることで、多様な意見を出しやすい雰囲気を作
ることも、大切にしていました。

皆様、たくさんの質問をありがとうございました！